イルミナでAmpliSeqパネル解析をはじめよう 【情報解析編】初めての方でも大丈夫、クラウ ドを用いた簡単クリック情報解析





プレゼンテーションを始める前に

- 本資料で紹介しているイルミナ試薬の価格は、2018年4月改定 版の試薬消耗品価格表を参照しています。
- 本プレゼンテーションはのちほど録画とスライドをイルミナ HPで公表します。
- 本スライドで紹介する試薬は、研究用試薬となります。



イルミナウェビナー 「イルミナでAmpliSeqパネル 解析をはじめよう」シリーズのご案内



AmpliSeqの製品紹介 ライブラリー調製

4月25日

AmpliSeq製品 群の紹介の他、 ライブラリー調 製を成功させる ためのワークフローと実験氏 Tipsをお伝え ます。







AmpliSeqの 情報解析

5月30日

AmpliSeqの 情報解析の流 れから出力結 果まで、がん パネルを例に 紹介します。



AmpliSeqの カスタムデザイン

6月末予定

AmpliSeqの カスタムデザインの手順を 実際に遺伝子 やホットなどよ ポットなども がい紹介 である。

イルミナの過去ウェビナーは以下で動画とスライドを公開しています https://jp.illumina.com/events/webinar.html



AmpliSeq for Illumina ワークフロー

4月のウェビナーで説明済み











1日目

2日目



ライブラリー調製

5~7時間

- ハンズオン1.5時間
- 10ステップ

シーケンス

約17~32時間*

- イルミナデスクトップシー ケンサーに対応
- 試薬充填済みカートリッジ
- タッチパネル式操作
- 固定パネルでは 2x151 bp

*シーケンサーごとに異なる



- ローカルおよびクラウ ドベースの解析
- ✓ Local Run Manager
- ✓ BaseSpace Sequence Hub
- ✓ BaseSpace Variant Interpreter

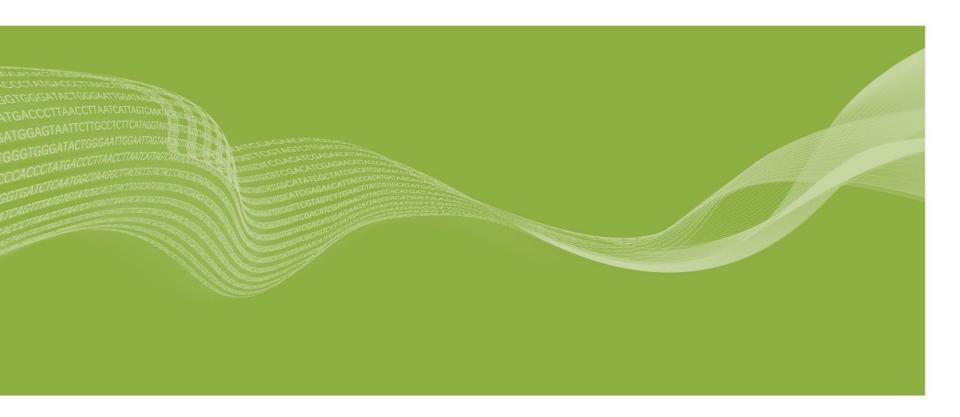


今回のセッションの流れ

- 情報解析の実行
- 変異解析に必要なカバレッジ
- 情報解析結果の確認
- 変異解析結果へのアノテーションとフィルタリング

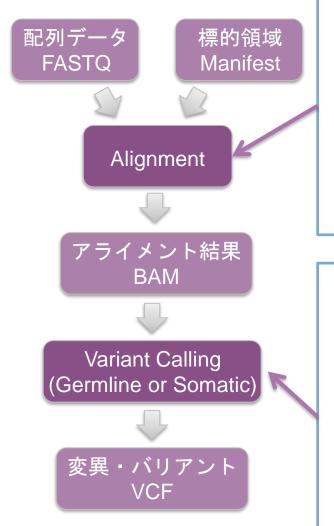


情報解析の実行 Local Run Managerと BaseSpace App

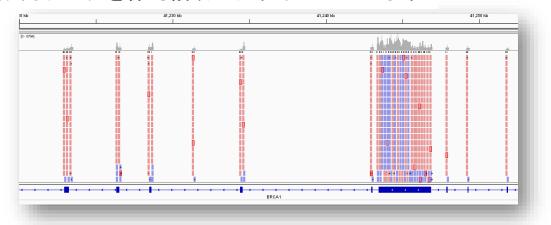


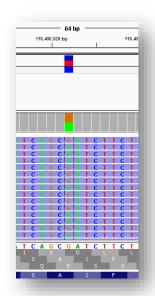


AmpliSeq DNA Ampliconの解析ワークフロー



配列データを標的領域にアライメントします





参照ゲノム配列とアライメントされた配列の違いを検出し、変異・バリアントをVCFファイルとして出力します。

Germline (生殖系列細胞バリアント) とSomatic (体細胞変異)の二つのどち らかを選択します。

AmpliSeqの情報解析の実行にはLocal Run ManagerとBaseSpaceの二つのオプション

Local Run Manager





シーケンサー装置のPC もしくは、お客様のWindows PC



クラウド環境



- ✓ シーケンサー装置にすでにインストール済み ✓ シーケンサーからDataをアップロード可能
- ✓ シーケンス終了後そのまま情報解析を実行
- ✓ お客様のWindows PCにもインストール可能 ✓ データシェアが容易 (Local Run Manager Off-Instrumentと呼ぶ)
- ✓ インターネット接続は不要

- ✓ ブラウザを通してどこでも結果閲覧が可能
- - ✓ CNVといった複雑な解析にも対応
 - ✓ PCやソフトウェアのメンテナンスを行う必要がない



✓ 一部の複雑な情報解析が実行不可

- ✓ 情報解析の実行は有償
- ✓ クラウド環境へのデータアップロードが必要

<u>MiSeq・MiniSeq・NextSeqについては、Local Run</u> ManagerはOff Instrumentのみしか現状は対応していませ ん (2018年5月)。年内にリリース予定です。



Local Run Manager Off Instrumentについて

Local Run Manager Off Instrumentはお客様準備のPCに解析ソフトウェアをインストールし、Localで情報解析を行います。

• 必要なPCのスペック

- Computing Requirements
 - ≥ 16 GB RAM (メモリ不足だと解析がAbortしてしまいます)
 - ≥ 1 TB of disk space (少なくとも100 GB以上は必要)
 - 64-bit quad core processor (2.8 GHz or higher) with the AVX instruction set (recommended) or Intel Core i7-210QE 2.10 GHz (or equivalent) processor with the AVX instruction set (minimum).
 - Display resolution of 1024 x 768 or higher
- Software Requirements
 - Windows 7 Pro 64-bit with Service Pack 1 (English-US) or Windows 10 (Personal Edition versions are not supported *Windowsのバージョンを確認ください。
 - Microsoft .NET 4.5.2 or higher
 - Google Chrome 46.0.2490 (最新のものであればOK!)
- 以下のプログラムがあるとインストールできない場合があります。
 - PostgeSQL 9.3、Rabbitmq 3.5.1、Erlang/OTP 17、C++ 2012 64-bit Redistributable、C++ 2013 64-bit Redistributable、C++ 2015 64-bit Redistributable、Illumina Run copy service、Internet Information Services、Local Run Manager

AmpliSeq for illuminaの情報解析ツール

AmpliSeq DNA

AmpliSeq RNA



SNP Short INDDEL (塩基置換 短い挿入・欠損)

CNV (コピー数異常) Fusion Gene (遺伝子融合)

Gene Expression (遺伝子発現)



DNA Amplicon Analysis Module

対応していない

RNA Amplicon Analysis Module









情報解析に必要なもの

【Local Run Managerの場合】

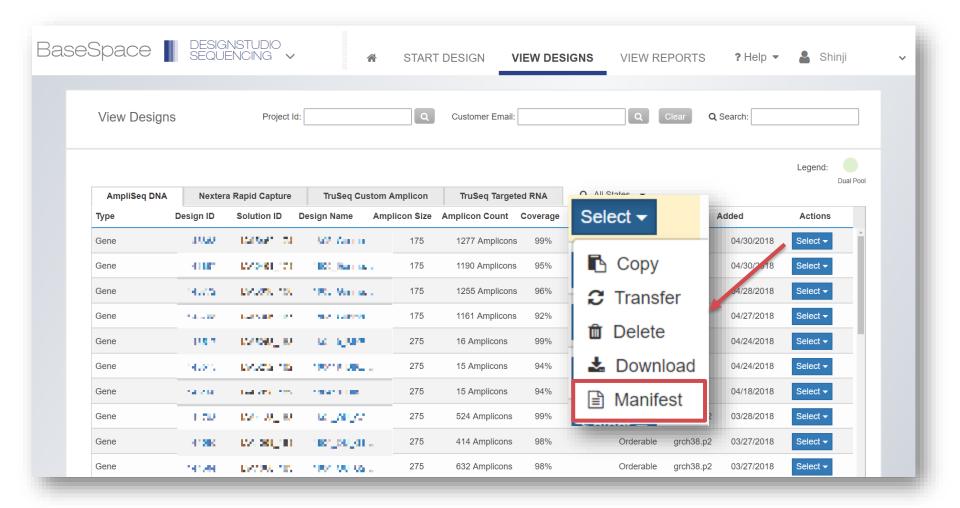
- Run Folderそのもの
- Manifest File (標的を示す位置情報ファイル)
 - 固定パネルの場合は、イルミナテクニカルサポート(techsupport@illumina.com) にお問い合わせください、HPからは配布しておりません。
 - カスタムパネルの場合は、DesignStudioよりダウンロード可能です。

【BaseSpace Sequencing Hubの場合】

- FASTQファイル、もしくはシーケンサーをBaseSpaceにつなぎ、 データをアップロードする。
- Manifest File (標的を示す位置情報ファイル)
 - 固定パネルの場合は、選択肢より選択することが可能です。
 - カスタムパネルの場合は、DesignStudioよりダウンロードし、BaseSpaceにアップロードする必要があります。



カスタムパネルのManifest Fileは DesignStudioよりダウンロードが可能です





BaseSpace DNA Ampliconアプリ



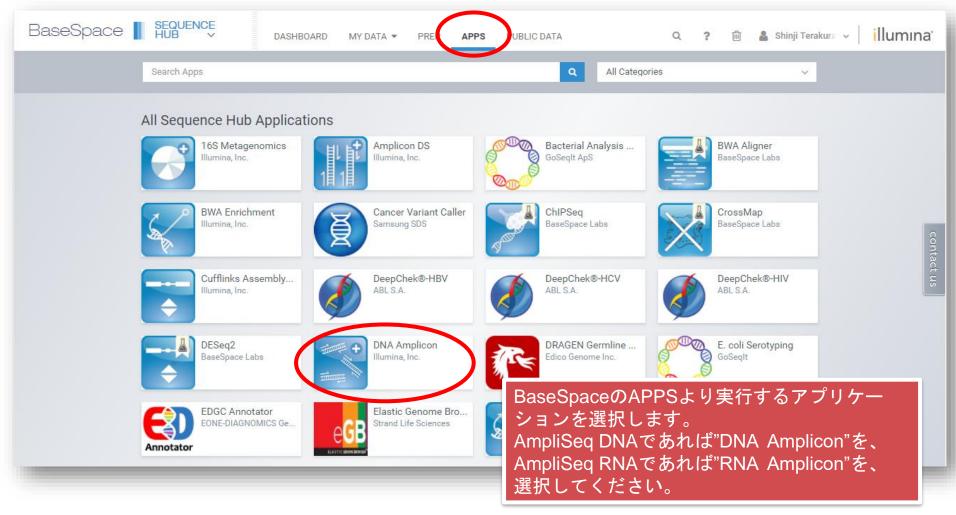
Reference Genomeは以下を使用することが可能です。

- Human, UCSC hg19
- Human, NCBI GRCh38Decoy
- Chicken, Ensembl Galgal4
- Cow, Ensembl UMD3.1
- Dog, Ensembl CanFam3.1
- Maize, Ensembl AGPv3
- Mouse, UCSC mm9
- Pig, Ensembl Sscrofa10.2
- Rat, UCSC rn4
- Rice, Ensembl IRGSP-1.0
- Sheep, Ensembl Oar_v3.1
- Soybean, Ensembl Gm01



BaseSpaceでのDNA Ampliconの解析実行方法

使用するアプリケーションを選択



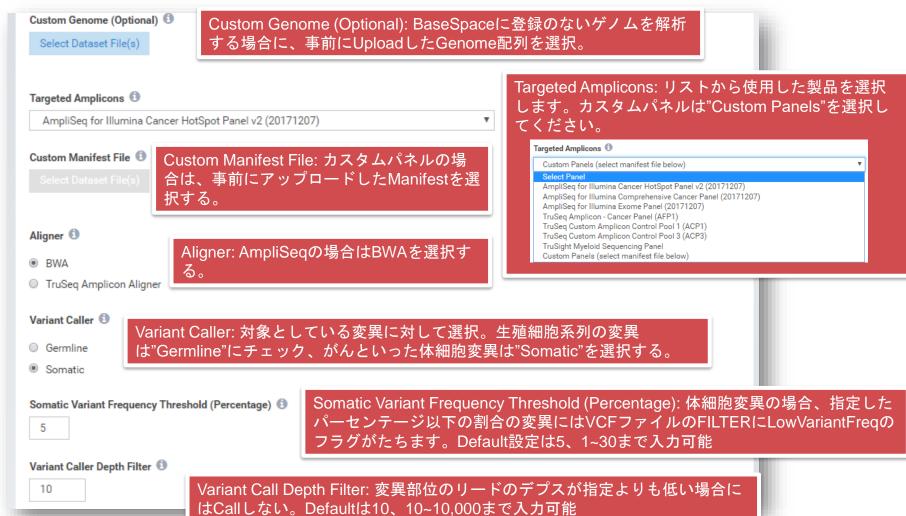


BaseSpace DNA Amplicon パラメーター入力 (1)





BaseSpace DNA Amplicon パラメーター入力 (2)



BaseSpace DNA Amplicon パラメーター入力 (3)





Variant Callerの主なコール条件

GermlineとSomatic Variant Callerは違いがあるので、気を付けましょう。 (頻度が低いがんの体細胞変異はGermline Variant Callerでは検出できない、 モザイクの場合にはSomatic Variant Callerを使用するなど)

Germline Variant Caller

- 20%以下のバリアントは、Callしない。Variant Qualityが20未満は、Callしない。
- 20~70%の頻度のバリアントはヘテロ接合としてコールする。70%の頻度を超えたバリアントはホモ接合としてコールする。
- 設定したVariant Call Depth Filter以下のDepth(Defaultは10)の部位ではCallしない。

Somatic Variant Caller

- Somatic Variant Frequency Filterで設定した数値未満の頻度の変異・バリアントは、VCFファイルのFILTERにLowVariantFreqのフラグがたちます。
- 設定したVariant Call Depth Filter以下のDepth(Defaultは10)の部位ではCallしない。



BaseSpace DNA Amplicon 情報解析コスト

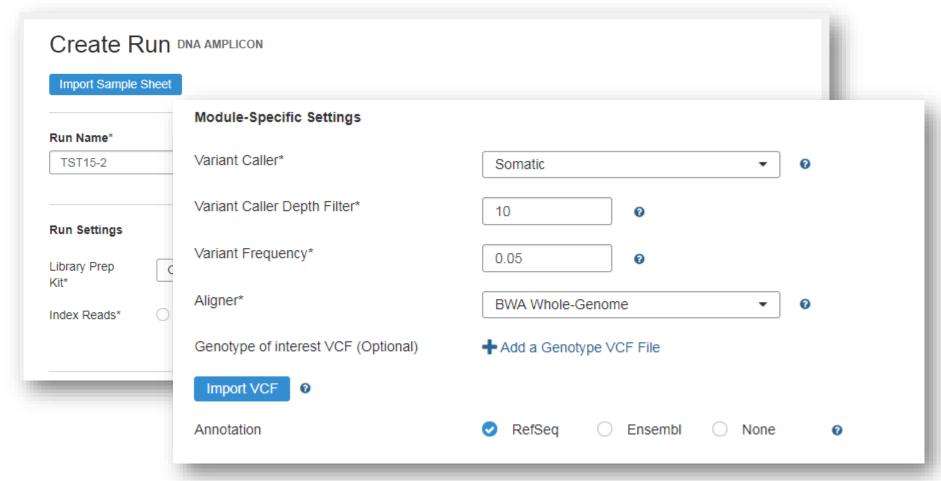
Name	
Application	
Date Started	Wed, May 2, 2018 3:44 P
Date Completed	Wed, May 2, 2018 4:06 F
Ouration	22 minutes 36 secon
Compute Charge	15.00 iCred
Session Type	
Node Count	
Size	2.12 (
Status	Comple

Cancer HotSpot v2パネルの96検体を解析すると、22 min.で解析は終了し、解析コストは 15 iCredits*となりました。*1 iCredit = 120円 (2018年5月現在)となります。

解析コストは、解析を実施するシーケンス量などに依存して変わります。 たくさん解析すれば、その分だけ解析コストは上がります。

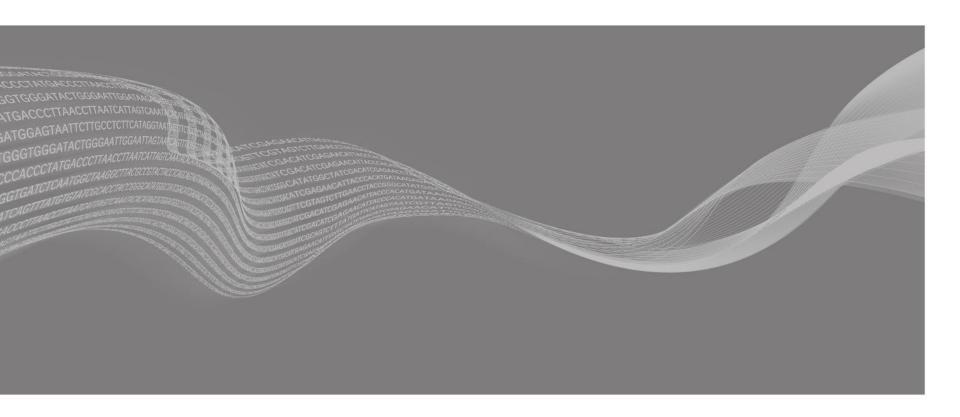


Local Run Managerも同様に情報解析の実行が可能です。



BaseSpaceと同様にクリック操作で情報解析を実行可能です。 Local Run Managerでは、Indel Realignmentのオプションが実行できません(2018年5月現在)。

変異解析に必要なカバレッジ





がんといった体細胞変異の検出に必要なカバレッジ

癌体細胞変異は、生殖細胞系の正常なレファレンスゲノムには存在しません。このため、実験ノイズおよび混在する正常細胞のため、新たな体細胞変異を正確に検出することは困難です。新たな体細胞変異を検出するためには、極めてカバレッジの高いシーケンスが必要です。



がんといった体細胞変異の検出に必要なカバレッジ

<u>頻度5%の変異・バリアントを仮定した場合の例、</u> カバレッジをあげれば上げるほ<u>ど、P-Valueは小さくなる(より信頼性が上がる)。</u>

表1:異なるカバレッジにおけるSNPのQスコア

コールされた レファレンス塩基	変異塩基 コール	ミスコールの予想値 (1%エラー率*)	カバレッジ	P値	Q スコア
100	0	1	100	1	0
95	5	1	100	0.004	24
190	10	2	200	0.000046	43
475	25	5	500	1.60 × 10 ⁻¹⁰	98
4750	250	50	5000	3.33 × 10 ⁻¹⁶	155
	レファレンス塩基 100 95 190 475	レファレンス塩基コール10009551901047525	レファレンス塩基 コール (1%エラー率*) 100 0 1 95 5 1 190 10 2 475 25 5	レファレンス塩基コール(1%エラー率*)カバレッジ100011009551100190102200475255500	レファレンス塩基 コール (1%エラー率*) カバレッジ P値 100 0 1 100 1 95 5 1 100 0.004 190 10 2 200 0.000046 475 25 5 500 1.60 × 10 ⁻¹⁰

P値 = SNPが偽陽性である確率

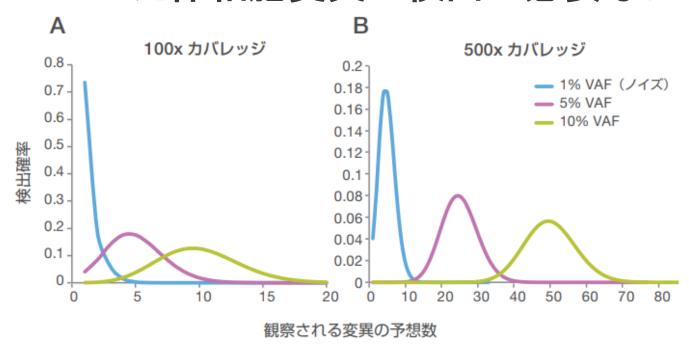
Qスコア = 高値であるほど、高い信頼性

Somatic Varinat Callerは、ポワソンモデルに基づいて、SNPに関するQスコアを算出します。例えば、3段目に示す、頻度5%のSNPに関しては、100xカバレッジにおいて、エラー率を保守的に1%と仮定した場合、Qスコアが24、P値が0.004となります(偽陽性である可能性が4/1000)。

*より高い信頼性のコールを実現するため、Somatic Variant Callerでは、保守的なエラー率を採用しています。

Somatic Variant Caller, illumina Technote: Sequencing Software https://jp.illumina.com/content/dam/illumina-marketing/apac/japan/documents/pdf/technote somatic variant caller-j.pdf

がんといった体細胞変異の検出に必要なカバレッ



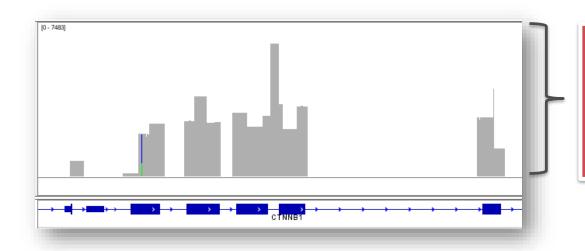
100×カバレッジ(A)では、5% VAFと10% VAFの間にかなりのオーバーラップが存在するため、 頻度が5%に満たない変異を高いで信頼性でコールすることは不可能です。これに対し、カバレッ ジを500×以上に増加させると(パネルB)、頻度が5%に満たない変異でも高い信頼性でコールす ることが可能となります。

X500以上のカバレッジであれば、5%程度の変異を十分に検出することが可能です。
⇒ Liquid Biopsyを材料とした、1%以下といった非常に低い頻度の変異を検出するには、一般的に
Unique Molecular Identifier (UMI)を用いたアプリケーションが要求されます。

Somatic Variant Caller, illumina Technote: Sequencing Software https://jp.illumina.com/content/dam/illumina-marketing/apac/japan/documents/pdf/technote somatic variant caller-j.pdf

がん体細胞変異の検出に必要なカバレッジ

標的領域の広い範囲でX500以上のカバレッジを得るために、平均でX2,500カバレッジ程度までのシーケンスを行うことを推奨しています。



標的配列によって、リードのカバレッジにはバラつきが生じてしまうので、余裕を持ったシーケンスデザインが必要になる。

- たとえば、Amplicon数が1,000のカスタムパネルを構築した場合、検体当たり 250万クラスター(1,000X2,500)までのシーケンスを行うようにする。
- カタログ製品(固定パネル)は、各シーケンサープラットフォームでシーケンスできる検体数のガイダンスがあります。

がん体細胞変異の検出を目的としたカスタムパネルの場合は、最初のシーケンスを厚めにシーケンスを行い、その結果を見て、目的に適したカバレッジを設定するとよい。



カタログ製品の各シーケンサープラットフォームでのランあたりの解析検体数 (Data Sheetより抜粋) (1)

表 2: AmpliSeq for Illumina BRCA Panelに推奨されるイルミナのシーケンサー

装置	ラン当たりの サンプル数	ラン時間
体細胞変異研究		
iSeq [™] 100システム	12	17時間
MiniSeq [™] システム(中出力)	24	17時間
MiniSeqシステム(高出力)	80	24時間
MiSeqシステム (v2ケミストリーNano)	3	17時間
MiSeqシステム (v2ケミストリーMicro)	12	19時間
MiSeqシステム (v2ケミストリー)	48	24時間
MiSeqシステム (v3ケミストリー)	80	32時間
生殖細胞系列変異研究		
iSeq™ 100システム	96	17時間
MiSeqシステム (v2ケミストリーNano)	32	17時間
MiSeqシステム (v2ケミストリーMicro)	96	19時間
最大96サンプルをマルチプレックス可能		

表 3: AmpliSeq for Illumina Cancer Hotspot Panel v2に推奨されるイルミナシーケンサー

装置	ラン当たりのサンプル数	ラン時間
iSeq [™] 100システム	16	17時間
MiniSeqシステム (中出力)	32	17時間
MiniSeqシステム (高出力)	96	24時間
MiSeqシステム (v2ケミストリーNano) 4	17時間
MiSeqシステム (v2ケミストリーMicro) 16	19時間
MiSeqシステム (v2ケミストリー)	60	24時間
MiSeqシステム (v3ケミストリー)	96	32時間

表 2: AmpliSeq for Illumina Comprehensive Panel v3に推奨されるイルミナシーケンサー

装置	ラン当たりのサンブル数 (DNAおよびRNA混合)	ラン時間
MiniSeqシステム(高出力)	3	24時間
MiSeqシステム (v3ケミストリー)	3	32時間
NextSeqシステム(中出力)	16	26時間
NextSeqシステム (高出力)	48	29時間



カタログ製品の各シーケンサープラットフォームでのランあた りの解析検体数 (Data Sheetより抜粋) (2)

推奨されるイルミナシーケンサー

装置	ラン当たりのサンブル数	ラン時間
NextSeqシステム(中出力)	4	26時間
NextSeqシステム (高出力)	12	29時間

表 3: AmpliSeg for Illumina Focus Panelに推奨されるイルミ ナのシーケンサー

装置	ラン当たりのサンプル数 (DNAとRNAの合計)	ラン時間
iSeq [™] 100システム	8	17時間
MiniSeqシステム(中出力)	16	17時間
MiniSeqシステム(高出力)	48	24時間
MiSeqシステム (v2ケミストリーMicro) 8	19時間
MiSeqシステム (v2ケミストリー)	30	24時間
MiSeqシステム (v3ケミストリー)	48	32時間

Table 2: Illumina Sequencing System Recommended for Use with the AmpliSeq for Illumina Exome Panel

Sequencing System	Exomes per Run	RunTime
NextSeq System (high output)	8	29 hours

表 2: AmpliSeq for Illumina Comprehensive Cancer Panelに表 3: AmpliSeq for Illumina Immune Response Panelに推奨 されるイルミナシーケンサー

装置	ラン当たりの サンプル数	ラン時間
MiniSeq [™] システム(中出力)	8	17時間
MiniSeqシステム(高出力)	24	24時間
MiSeq [™] システム(v2ケミストリー)	16	24時間
MiSeqシステム (v3ケミストリー)	24	32時間
NextSeqシステム(中出力)	96	26時間

表 2: AmpliSeg for Illumina Transcriptome Human Gene Expression Panelで推奨されるイルミナのシーケンサー

装置	ラン当たりの サンプル数	ラン時間
MiniSeq [™] システム(高出力)	3	24時間
MiSeq [™] システム (v3ケミストリー)	3	32時間
NextSeqシステム(中出力)	12	26時間
NextSeq システム(高出力)	40	29時間



Sequencing Coverage Calculatorの紹介

Sequencing Coverage Calculatorを用いれば、カタログパネルの、各シーケンサープラットフォームのシーケンス条件を調べることも可能です。

http://jp.support.illumina.com/downloads/sequencing_coverage_calculator.html

Sequencing Coverage Calculator Thank you for using the Illumina coverage calculator. The results were calculated based on: Recommended samples per flow cell or lane. Explain the calculations Application or product: AmpliSeg BRCA Panel for Illumina (germline) Genome or region size: 0.026 Mbases Read length: 150 Recommended number of 33.333 clusters (on target): iSeq 100 Run type i1 Reagents 4.000.000 Clusters per flow cell Exceeds maximum read length? Does not exceed maximum (2x300) 0.01 flow cells Number of units (flow cell or lane) Samples per unit (flow cell or lane) 96 / flow cell iSeq 100 i1 Reagents



がんといった体細胞変異の検出に必要なカバレッジ

<u>あくまで仮定ですが、</u>



腫瘍率によっては、それほど高いカバレッジは要求されないかもしれません。また、腫瘍率からおおよその変異頻度が推察できるので、解析の結果、得られた変異頻度と矛盾がないかを確かめると良い。



生殖細胞系列でのバリアント検出に必要なカバ レッジ

体細胞変異5%程度の検出にはX2,500程度までのカバレッジが必要ですが、生殖細胞系列のバリアント検出の場合、X500程度までのカバレッジが得られるようにシーケンスすれば、ヘテロ接合を取りこぼしなくスクリーニングすることが可能です。

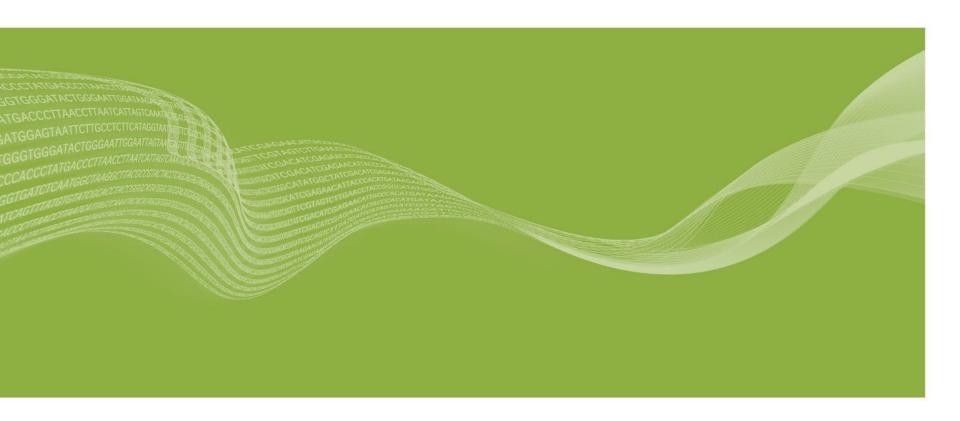


対象	製品名	平均カバレッジ
がん体細胞	Cancer Hotspot v2 Panel	2,500~3,300程度
変異	Comprehensive Cancer Panel	1,300~2,500程度
体細胞変異	Exome Panel	300~450程度

イルミナのデモデータは、BaseSpaceで公開をしています、閲覧にはアカウントの取得が必要になります(無償)。

https://basespace.illumina.com/datacentral

情報解析結果の確認 実験がうまくいったか?

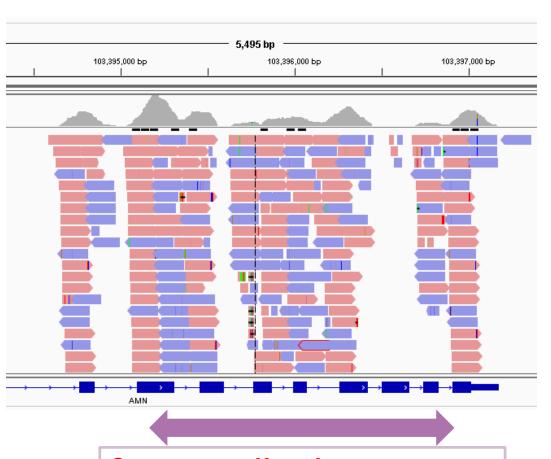




実験がうまくいったか確認することは3つ On target Rate、Coverage Depth、Coverage Uniformity

On Target Rate (%):

読んだデータのうちどれだけ標的領域にアライメントできたか?



Coverage Depth:

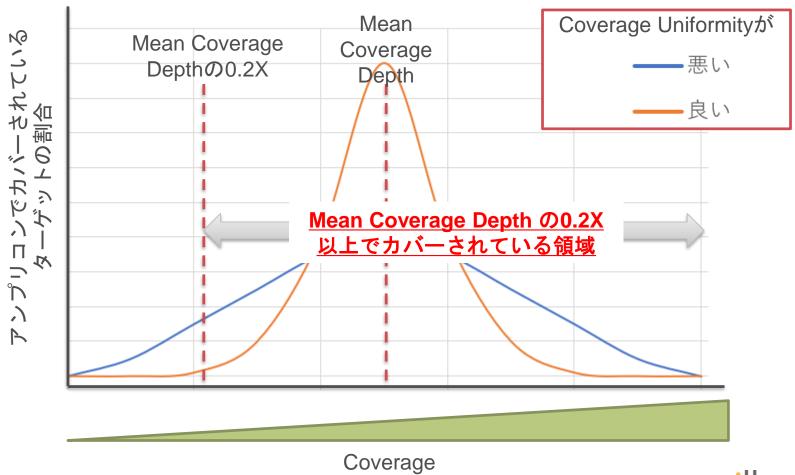
標的領域をどれぐらい の厚みで読めたか?

Coverage uniformity:

標的領域が均一な厚さで読めたか?

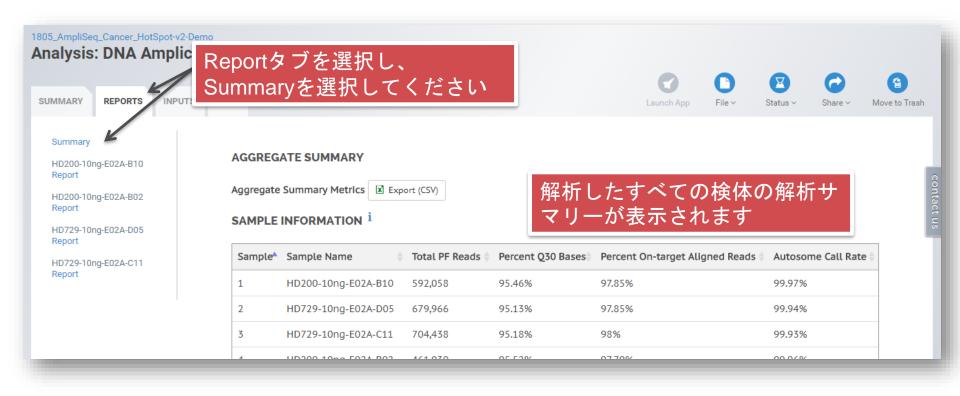


Coverage Uniformityのスコアは、 Mean Coverage Depthの 0.2X以上でカバーされている領域割合で示される。



BaseSpace DNA Amplicon解析結果の確認

解析結果に問題がなかったかを確認しましょう





BaseSpace DNA Amplicon解析結果の確認 On target Rate、Coverage DepthとUniformity

Read Level Statistics i

Sample ^	Sample Name	♦ Total Aligned Reads (R1/R2)	Percent Aligned Reads (R1/R2)	Overall Percent Aligned Reads
1	HD200-10ng-E02A-B10	287,721 / 286,054	97.19% / 96.63%	96.91%
2	HD729-10ng-E02A-D05	329,381 / 327,399	96.88% / 96.3%	96.59%
3	HD729-10ng-E02A-C11	341,089 / 339,486	96.84% / 96.38%	96.61%
4	HD200-10ng-E02A-B02	223,789 / 222,677	97.08% / 96.6%	96.84%

Show 10 ▼ entries

Percent Aligned Reads (R1/R2): **On Target Rate**とも言われるスコアになります。標的領域にアライメントされたReadの割合*を示します。*BaseではなくReadで確認したほうがよい

COVERAGE SUMMARY

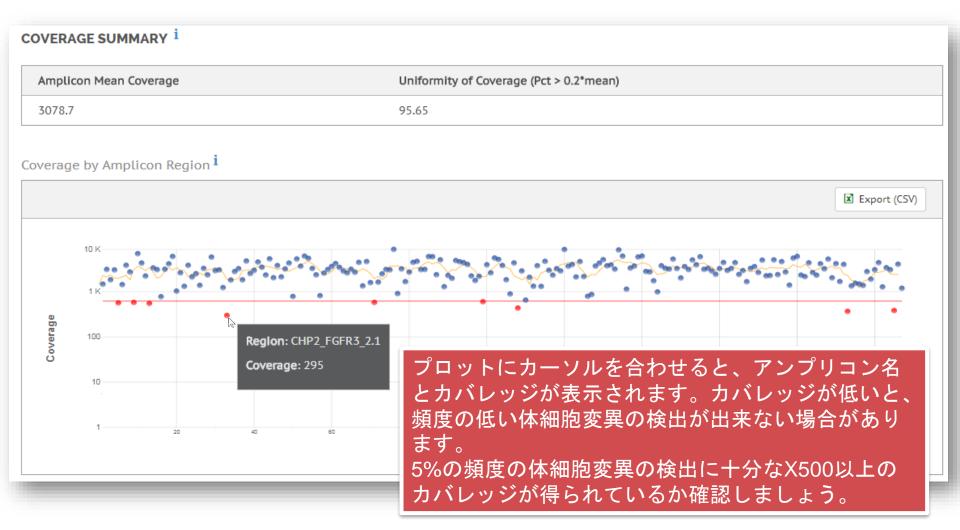
Sample	▲ Sample Name	Amplicon Mean Coverage Depth	Uniformity of coverage (Pct > 0.2*mean)
1	HD200-10ng-E02A-B10	2712.3	99.52
2	HD729-10ng-E02A-D05	3104.6	100
3	HD729-10ng-E02A-C11	3222	100
4	HD200-10ng-E02A-B02	2109.1	100

Sh

Amplicon Mean <u>Coverage Depth</u>: カバレッジデプスの平均値を示しています。体細胞変異の高いカバレッジデプスが必要です。

<u>Uniformity of Coverage</u> (Pct > 0.2*mean): 平均カバレッジデプスのx0.2以上のデプスで覆われている、標的領域の割合を示しています。

BaseSpace DNA Amplicon解析結果の確認 On target Rate、Coverage DepthとUniformity





カタログパネル製品のスペック

パネル製品	On Target Ratio (%)/ Percent Aligned Reads	Uniformity of Coverage (Pct > 0.2*mean)
BRCA Panel	>80%	>95%
Cancer Hotspot Panel v2	>80%	>95%
Focus Panel	>80%	>95%
Comprehensive Panel v3	>85%	>95%
Comprehensive Cancer Panel	>90%	>90%
Exome Panel	>80%	>90%

*各製品のデータシートを参考



BaseSpace DNA Amplicon解析結果の確認 On target Rate、Coverage DepthとUniformity

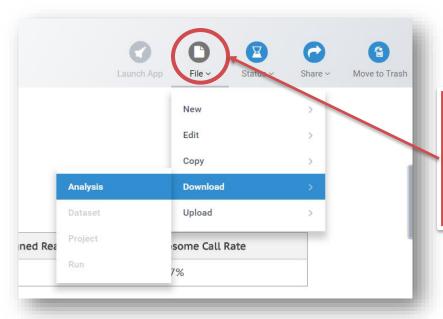
期待した結果が得られなかった場合

- Percent Aligned ReadsやUniformity of Coverage といった数値が低い場合には、PCR条件を確認する。
- Amplicon Mean Coverage Depthが低い場合には、 シーケンス量が十分かを確認する。
- サンプルの分解度やサンプル量にあったPCR条件であるかを確認する。(サンプル量や分解度に合わせる形でPCRサイクル数をReference Guideに従い変更します。)

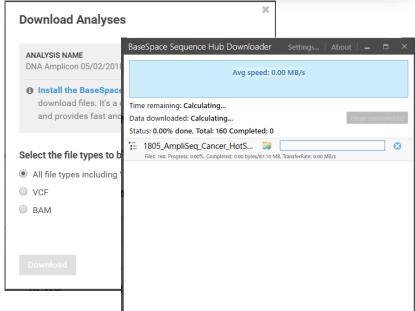
標的領域(GC% richなど)によっては、解析が難しい場合もあります。



BaseSpaceでの解析結果ファイルの一括ダウンロード



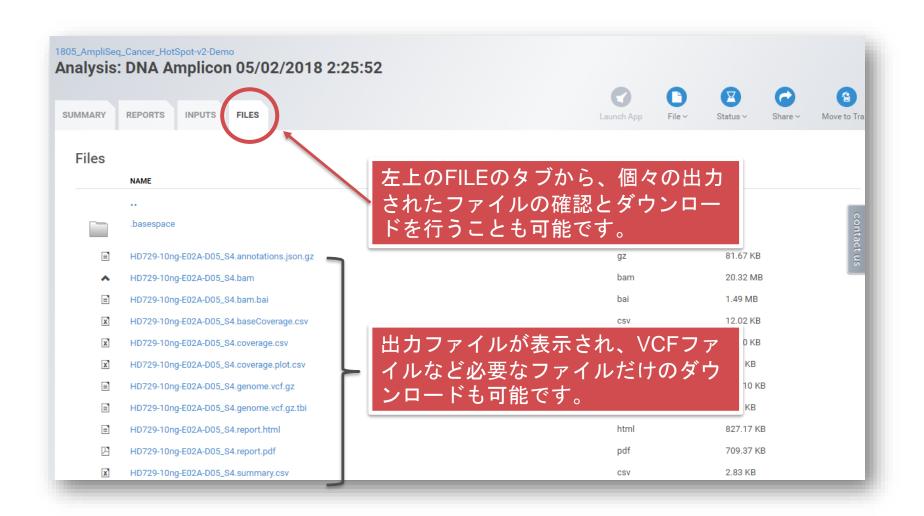
画面右上で、File > Download > Analysisと進むと、解析結果ファイル (BAMファイル、VCFファイルを含む) を一括ダウンロードすることが可能です。



容量が非常に大きくなることもあるので、専用のダウンローダー (BaseSpace Sequence Hub Downloader)を用いてダウンロードを実行します。

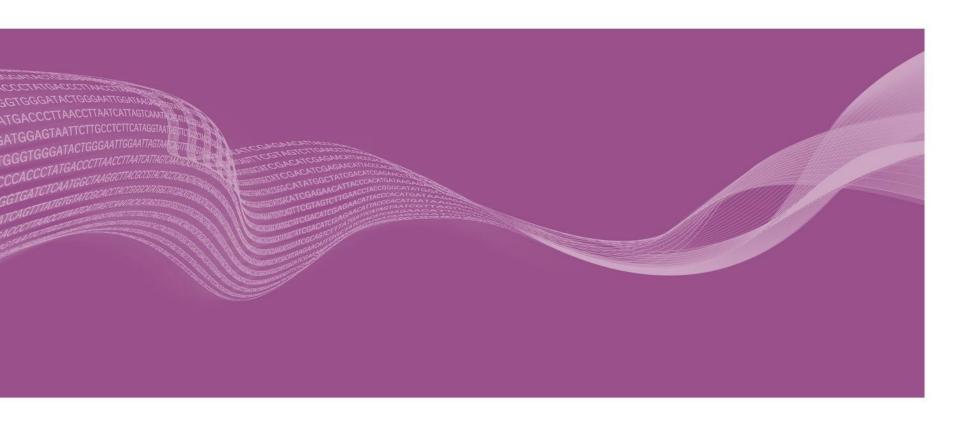


個々のファイルもダウンロード可能です。



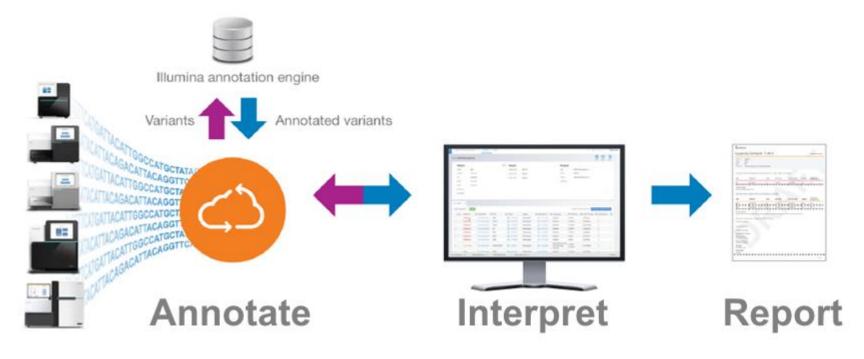


変異解析結果へのアノテーションとフィルタリング





変異・バリアントへのアノテーションとフィルタリ ング



- さまざまなデータベースを用いて正確な注釈を提供する
- 生物学的に重要な変異・バリアントを同定する
- 解釈とレポートの合理化

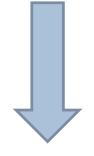


変異・バリアントへのアノテーションとフィ ルタリング

基本的に、VCF fileには、参照配列と異なるゲノム位置と塩基情報の記載のみ (イルミナの解析ソフトはいくつかの項目に対しアノテーションを実施します)

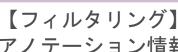
#CHROM POS ID REF ALT QUAL FILTER INFO FORMAT

Chr2 48030639 . A C 94.00 PASS DP=12703 GT:GQ:VF:NL:SB 0/1:94:0.0322:20:-40.7136:



【アノテーションの実施】

- ✓ タンパク質の機能的影響予測
- ✓ 人種集団におけるアリル頻度
- ✓ 疾患やがん体細胞変異データベース(ClinVarやCOSMIC)との比較
- ✓ 臨床試験データの情報 (Variant Interpreterのみ)



アノテーション情報をもとに、原因と考えられる変異・バリアントの 絞り込みを行う。



VariantStudioとVariant Interpreterの紹介

VariantStudio



VariantStudio™

お客様のWindows PC

Variant Interpreter



クラウド環境



- ✓ 専用のソフトウェアを用いて結果を閲覧 し、多検体閲覧も非常に楽。
- ✓ インターネット接続は不要。

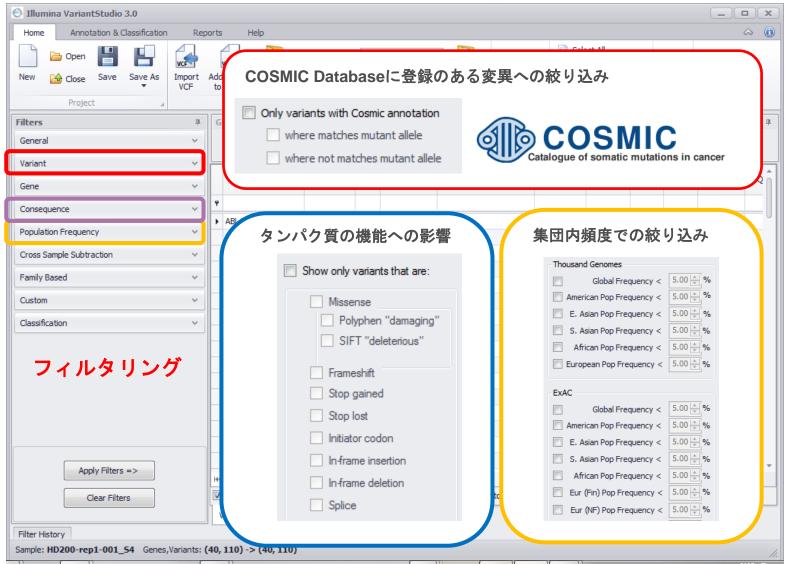
- ✓ ブラウザを通してどこでも結果閲覧が可能。
- ✓ 臨床試験データの情報が閲覧できる。



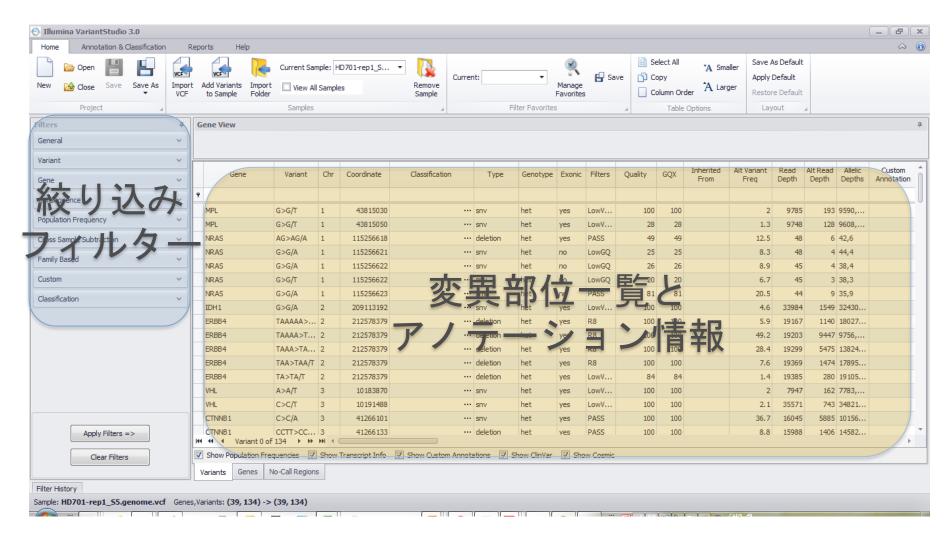
- ✓ データベースが最新のものとは限らない
- ✓ Variant Interpreterで閲覧できる、臨床試験データの情報が閲覧できない。
- ✓ 現在は無償で提供しているが、将来的に有償 の予定。
- ✓ 多検体をまとめて閲覧するのは不得手。



VariantStudioでのアノテーションとフィルタリング



VariantStudioでのアノテーションとフィルタリング





VariantStudioを用いたがん体細胞変異のフィルタリングの例

Quality Filter

コールされたバリアントのうち、品質が低いバリアントを除きます。

Population Frequency Filter

あるポピュレーションにおいて、頻度が1%以上で報告 されているバリアントを除きます。

Allelec Frequency Filter

体細胞変異の頻度が低いバリアントを除きます。頻度が低いバリアントは、偽陽性の可能性があります、

COSMIC annotation Filter

・がんの体細胞変異データベースであるCOSMICに登録の あるバリアントのみに絞り込みを行います。

機能的影響

・ミスセンス・ナンセンス変異やタンパク質の機能予測に 絞込みを行います。

Primary Site • Histology

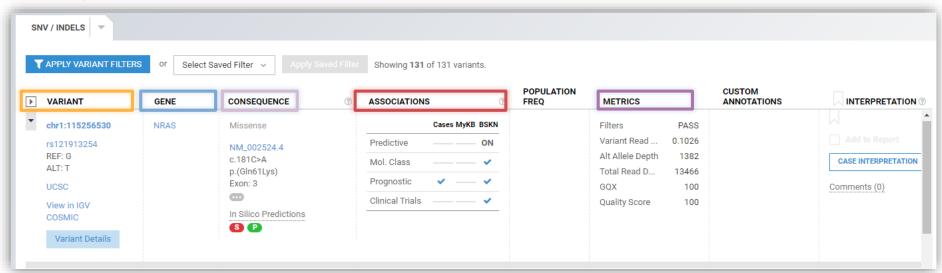
興味のある組織(や器官)でCOSMICで報告があるかで、 絞込みを行います。



専用のソフトウェアを用いてクリック操作で、簡単に上記の絞り込み操作を行うことが可能です。



Variant Interpreterでのアノテーションとフィルタリング



Variant

バリアントの概要、リンク、 Curated Contents

Gene

OMIM へのリ ンク

Consequence

変異・バリアントとEnsembleへ のリンク

Associations

MyKB: My Knowledge Base network

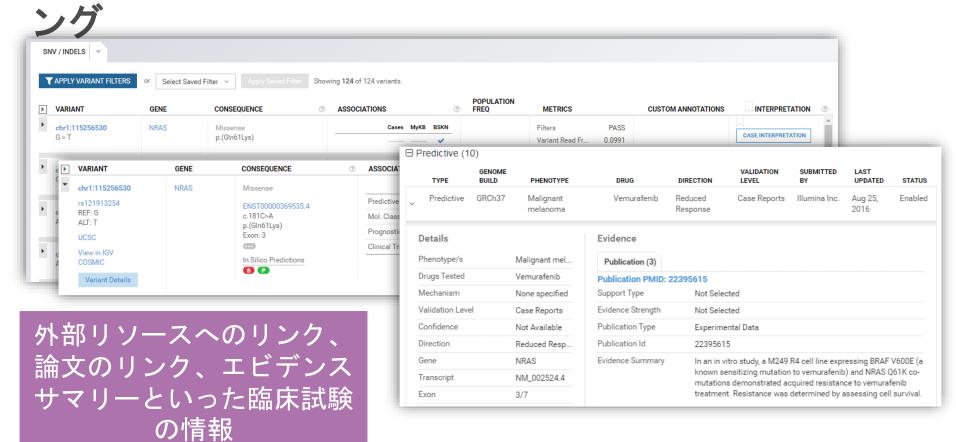
BSKN: BaseSpace Knowledge Network

Metrics

変異・バリアント の品質情報 (Depth 、QUALITY)



Variant Interpreterでのアノテーションとフィルタリ







VariantStudioとVariant Interpreter 使用方法はウェビナーを参考に

- BaseSpace Variant Interpreter (Beta!) 、ことはじめ【イルミナiSchool 初級】
 - https://jp.illumina.com/events/webinar/2017/webinar_170628_j.html
- バージョンアップしたデスクトップ版VariantStudio v3.0変異解析ソフトウェアの徹底活用法【イルミナiSchool 中級】
 - https://jp.illumina.com/events/webinar/2017/webinar_170524_j.html

イルミナの過去ウェビナーは以下で動画とスライドを公開しています https://jp.illumina.com/events/webinar.html



まとめ (1)

情報解析の実行

- 標的領域を示すManifestファイルといった必要なファイルを準備する。
- クラウド環境で使用するBaseSpace、もしくはLocalのWindows PCで使用するLocal Run Managerを用いて、クリック操作で簡単に情報解析を実行ができます。
- がんの体細胞変異解析と生殖細胞系列のバリアント解析では使用するVariant Callerが異なる。

● 変異解析に必要なカバレッジ

- がんの体細胞変異解析で5%頻度の変異を検出するにはX500カバレッジが必要十分。標的領域の広い範囲で、X500カバレッジを達成するには、標的領域のX2,500程度までを読むとよい。
- 生殖細胞系列のバリアント解析は、標的領域のX500程度までを読むとよい。



まとめ (2)

情報解析結果の確認

- Percent Aligned Reads (On Target Rate)、Uniformity of Coverage、 Amplicon Mean Coverage Depthといった値を確認し、必要なカバレッジが得られたか、ライブラリー調製に問題がなかったかを確認します。

変異解析結果へのアノテーションとフィルタリング

- Windows PCにインストールして使用するVariantStudioと、クラウド環境で使用するVariant Interpreterの二つを用いて解析を行うことが可能です。

